

佛乗寺檀信徒の皆さまへ

日蓮正宗 佛乗寺 住 職 笠原建道
講 頭 廣田正至

『窪尼御前御返事』弘安四年一二月二七日六〇歳 御書・一五八一頁)

【御文】

しなじなのものをくり給びて候。

善根と申すは大なるによらず、又ちいさきにもよらず、国により、人により、時により、やうやうにかわりて候。

譬へばくそをほしてつきくだき、ふるいて、せんだんの木につくり、又、女人・天女・仏につくりまいらせて候へども、火をつけてやき候へばべちの香なし。くそくさし。そのやうに、ものをころし、ぬすみをして、そのはつををとりて、功德善根をして候へども、かへりて悪となる。

須達長者と申せし人は月氏第一の長者、ぎをん精舎をつくりて、仏を入れまいらせたりしかども、彼の寺焼けてあとなし。この長者もといををころしてあきなへて長者となりしゆへに、この寺つゐにうせにき。

今の人々の善根も又かくのごとし。大なるやうなれども、あるいはいくさをして所領を給び、或はゆへなく民をわづらはして、たからをまうけて善根をなす。此等は大なる仏事とみゆれども、仏にもならざる上、其の人々あともなくなる事なり。

又、人をもわづらはさず、我が心もなをしく、我とはげみて善根をして候も、仏にならぬ事もあり。いはく、よきたねをあしき田にうえぬれば、たねだにもなき上、かへりて損となる。まことの心なれども、供養せらるゝ人だにもあしければ功德とならず、かへりて悪道におつる事候。此は日蓮を御くやうは候はず、法華経の御くやうなれば、釈迦仏・多宝仏・十方の諸仏に此の功德はまかせまいらせ候。

抑今年の事は申しふりて候上、当時はとしのさむき事、生まれて已来いまだおぼへ候はず。ゆきなんどのふりつもりて候事おびたゞし。心ざしある人もとぶらひがたし。御をとづれをぼろげの御心ざしにあらざるか。恐々謹言。

十二月二十七日

日蓮 花押

くぼの尼御前御返事

【意識】

種々のもの、御供養として確かにお受けいたしました。

功德を積む善根に、大きい善根とか小さい善根という区別はありません。また、国によっても違い、人によっても違い、時代によっても変わるもので、一概にいえるものではありません。

たとえば、糞を乾燥させ打ち砕き、それをふるいにかけてできた粉を固め、梅檀の木に似せて作り、その木を削って女人や天女や仏像を作ったとします。しかし、その仏像に火を点けて燃やしときには、元の糞の臭いがします。梅檀のよい香りではありません。それと同じで、動物を殺したり初穂を盗んだりして得た物を、仏に供養して、功德善根を積んだように見えても、それはかえって悪業となります。

須達長者は印度で一番の長者です。祇園精舎と言うお寺を建立して釈尊をお招きしましたが、祇園精舎は火事によって跡形もありません。それは、須達長者が魚を殺すことで長者となったからで、その殺生罪の報いを受けて祇園精舎は焼失したのです。

今の人々が善根を積むための供養も同じです。大きな善根を積んでいるように見えますが、ある者は戦をして得た領地や、あるいは理由もなく民衆をわずらわして築いた財産を仏に供養することで善根としています。これらは大きな仏事のように見えますが、成仏もかなわず、その人々が供養した跡もなくなってしまうのです。

また、人をわずらわすこともなく、自らの心も正直で、一所懸命に修行に励み善根を行じても仏にならないこともあります。それは、いくら善い種であっても、土質の悪い田に蒔けば、芽が出ないばかりか種を無駄にして損害が出るようなものです。

この例でもわかりますように、正直な心であっても供養される人が悪ければ功德とはなりません。かえって悪道に堕ちてしまいます。

その上で、この度の貴女の御供養を考えてみますと、品々の物は日蓮への御供養ではなく、御本尊様への御供養ですから、釈迦仏や多宝仏や十方の仏が、貴女への功德を決めて下さいます。ご安心下さい。

そもそも今年は以前から申し上げておりますように、体調が思わしくありません。さらにこの冬は、ことのほか寒さが厳しく、初めて経験することです。雪の積もり方は異常です。志がある方でも容易には訪れることができないところを、お便りを下さった貴女のお志に、並々ならぬ御信心が表れております。誠に貴いものです。

【要点】

御供養の精神

窪尼の御供養に対する大聖人様の御返事です。この中で、私たちは御供養の精神を学ぶことが出来ます。

一つは、「不正な蓄財をして御供養としたところで功德とはならない」と述べられ、御供養をする者の心構えを教えてください。

二つには、「不正のない正直な心からの御供養であっても、誤った者に供養をすることは、供養をした者も罪を受けることになる」と述べられて、教えの正邪を知ること、正しい仏様への御供養の大切なことを教えてください。

三つには、日蓮大聖人様が建立下さった大御本尊様への御供養は、絶対の御供養であり、御本尊様からの功德があるのだから、安心するように、と窪尼を激励されております。

この御文に、私たち末法の衆生の御供養の精神が示されております。すなわち、「日蓮を御くようは候はず」と仰せの意をよくよく拝さなくてはなりません。窪尼の御供養は、大聖人様への御供養ではありますが、それは末法のご本仏への御供養となるからです。そのことを、

法華經の御くやうなれば、釈迦仏・多宝仏・十方の諸仏に此の功德はまかせまいらせ候
と仰せ下さるのです。

この御文を私たちの信仰で拝するのなら、「法華經の御供養」とは、申すまでもなく御本尊様への御供養です。また「釈迦仏・多宝仏・十方の諸仏」は申すまでもなく、末法の御本仏日蓮大聖人様のことです。

つまり、御供養は御本尊様へされるものであり、僧侶個人への供養ではない、ということです。この大聖人様の御指南を私たちは忘れてはなりません。この点をわすれますと池田創価学会になります。

善根のように見えた悪事

皆さまのよくご存じのように、池田大作氏は、かつて大御本尊様を御安置申し上げる「正本堂」の建立願主として、多くの学会員に御供養の号令をかけました。純真な会員は、大御本尊様のため、と歡喜の御供養をいたしました。そして昭和四十七年に正本堂は完成しましたが、ご承知のように現在は跡形もありません。まさに、

此等は大なる仏事とみゆれども、仏にもならざる上、其の人々あともなくなる事なり

と仰せの通りです。

何故このようになったかといえ、池田大作の信仰の誤りがあったからです。たとえば、「私が正本堂を御供養した。その正本堂は本門戒壇である。もう広宣流布は達成した」等の慢心から出た言葉を見ればよく分かります。

池田大作にとって、正本堂の建立寄進の中心者となることで、「名誉欲」を満たすことはできました。しかし、残念ながら貴い功德善根は積みませんでした。彼の今の姿がそのことを物語っています。

気の毒で可哀想なのが、池田大作に利用された純真な学会員です。正直な信仰であっても、池田大作に利用されたことに気づかず、謗法を重ねています。御書に照らし合わせれば、「跡形もなく」なります。

功德は御本尊様が

「御供養の功德は御本尊様におまかせする」という精神が日蓮正宗の御供養の精神です。

ですから、池田大作に騙されて、正本堂の御供養をした、と歎く必要はありません。佛乗寺法華講の皆様の中にも、御供養をされた方は大勢います。そのかた方に、功德がない、善根がない、と言っているのではありません。今現在、御法主日如上人のもとで、法華講員として信仰に励んでいるならば、過去に戻って大きな善根を積んだこととなります。それこそ、「御本尊様・大聖人様が決めて下さることですから、ご安心下さい」と声を大にして申し上げます。

五重の塔・三門の御供養

宗祖日蓮大聖人様の御聖誕八百年を平成三十三年に迎えるにあたって、総本山の五重の塔と三門の大改修工事がはじまっております。御影堂の大改修に続いての大工事に巡り合ったことは過去世の善因のなせるものです。善き因があったらこそ、この度の慶事に巡り合うことが叶い、未来に向かっての功德を積むことができるのです。

現在の五重の塔も山門も御影堂も三百年以上前の法華講衆の力で建立されました。そして、平成の今日、世界中から登山参詣をした法華講衆の信仰を励ます建物です。三門の前に立って、南条時光殿や敬台院や天英院に「あなた方のような信仰の先輩がおられたからこそ、いまの私があります。有り難うございます」と感謝の念が自然に湧き上がってまいります。

百年後に総本山に登山参詣をした私たちの後輩も、現在の私たちと同じように、三門や御影堂や五重の塔に励まされ、平成の人たちのお陰だ、有り難い、と感謝の念を持つことは疑いのないことです。

御書を心肝に染める

かつて戸田城聖大講頭が、「信者は御供養をすること。悪いことに使った僧侶がいたらその僧侶が御本尊様からお叱りを受ける」と発言しておりますのは、戸田さんが、この『窪尼御前御返事』を心に染めていた証拠であり、日蓮大聖人様を日蓮正宗を心から信じていた言葉です。池田大作との違いです。

また、池田大作や多くの創価学会員のように、「私の真心の御供養」を連発する輩の心には、《御供養をしてやっている》という慢心が潜んでおります。そのような信心は、「今の人々の善根も又かくのごとし」であり、「仏にもならざる上、其の人々あともなくなる事なり」となる者たちです。互いに誡めてまいりましょう。

梅雨も明けも近く、猛暑と水不足が心配される真夏を迎えようとしております。佛乗寺法華講員の皆様には、十二分に体調の管理に気を配り、元気で過ごされますよう御祈念を申し上げます。

《友への折伏》

副講頭 川口 吉郎

今回は友人のSさんへの折伏体験です。Sさんは現在タクシーの運転手をされています。それ以前は、親から受け継いだ家業（不動産会社）を経営されておりましたが、残念なことにSさんの代になり倒産致しました。自分自身に問題があった、と仰っています。

Sさんの奥さんは熱烈な創価学会でした。会社の倒産、信仰上の問題等が重なりSさんご一家は離婚されました。Sさんは着の身着のまま家を出られ、タクシー運転手となりました。乗務できるときは何ら問題はありませんが、交通違反等で免許停止になると給料は1円も入らず、その時には、同僚が深夜帰宅したあとの洗車で給料を得るため、冬の手がちぎれるような寒いとき、何で私かと幾度も思ったそうです。

Sさんはお母さんが亡くなった時の話をされ、人間、死んで逝くときに今までの全てが決するのではないのでしょうかね、としみじみと話されておられました。彼の実家は浄土宗だそうです。

私は、信仰の正邪を話し、日蓮大聖人の仏法でなければ幸せにはなれないこと、人は誰でも宿業を持って来ている。宿業には善業と悪業があるが、悪業の方がはるかに多い、この悪業は間違った（邪宗）宗教を信ずるがゆえに起きること、宿業を消すには大聖人様の信仰しかないことを話しました。しかし、彼

には奥さんが信仰していた創価学会と同じに見え、入信を決意することは出来ませんでした。私は、この時に必ずこの人を御本尊様のもとにお連れしようと心に固く誓った次第です。それからしばらくして、Sさんから電話があり又、交通違反をしたとのことでした。今度は長くかかると言っておられました。念仏無限です。かつて、御法主上人猊下の御指南に『可哀想と思はなければ、折伏は出来ません』との御指南を賜りました。Sさんを折伏するまでは決して諦めることなく継続してまいります。

そう思って周囲を見ると、あの人も、この人もと邪宗を信ずる【可哀想】な友人、知人が沢山おります。今年も、半分か過ぎました。残り半年を悔い無きよう精進し、折伏の結果を出せるようにしたいと決意をしております。